

今人子百題

家

^ 5
4122
2





門利5  
號4122  
4-2

	廿	廿一	廿二	廿三	廿四
大...	十	十一	十二	十三	十四
...	十一	十二	十三	十四	十五
...	十二	十三	十四	十五	十六
...	十三	十四	十五	十六	十七
...	十四	十五	十六	十七	十八
...	十五	十六	十七	十八	十九
...	十六	十七	十八	十九	二十
...	十七	十八	十九	二十	廿一
...	十八	十九	二十	廿一	廿二
...	十九	二十	廿一	廿二	廿三
...	二十	廿一	廿二	廿三	廿四
...	廿一	廿二	廿三	廿四	廿五

凡人此皆欲在...



夕人子不影及之部目錄

生類之部

時子	一	深子子	二	セ子	三	深花	三
り子	三	翡翠	四	羽拔子	四	喜子	四
粉飼	四	かの子	四	水難	四	魚子	四
浮菜	五	螢	五	蛸	七	蟻の子	七
枝煙	七	毛虫	八	子及	八	水子	八
蠟	八	蚕	九	蛸	九	蚊	九
蚊	九	蚊	十	蛸	十	蟻	十
火子	十	麻子	十				

時作之部

夕衣	十二	徐	十三	夕衣	十三	深子	十四
夕子	十四	初月	十四	夕子	十五	水子	十五
夕佛	十六	お法事	十六	夕生	十六	竿子	十六
夕露	十六	夕露	十七	夕露	十七	大矢	十七
夕糸	十七	糸	十七	夕糸	十七	報	十八
夕糸	十八	初初鳥	十八	夕糸	十九	夕の報	十九
夕糸	十九	麦秋	二十	夕の報	二十	青さ	二十
夕糸	廿一	懺	廿一	夕の報	廿二	暮	廿二
夕糸	廿三	市坊	廿三	夕の報	廿三	夕の報	廿三
夕糸	廿三	坊子	廿三	夕の報	廿四	入	廿四
夕糸	廿四	夕月	廿四	夕の報	廿五	席	廿五
夕の月	廿六	夕月	廿六	夕の報	廿七	夕の山	廿七



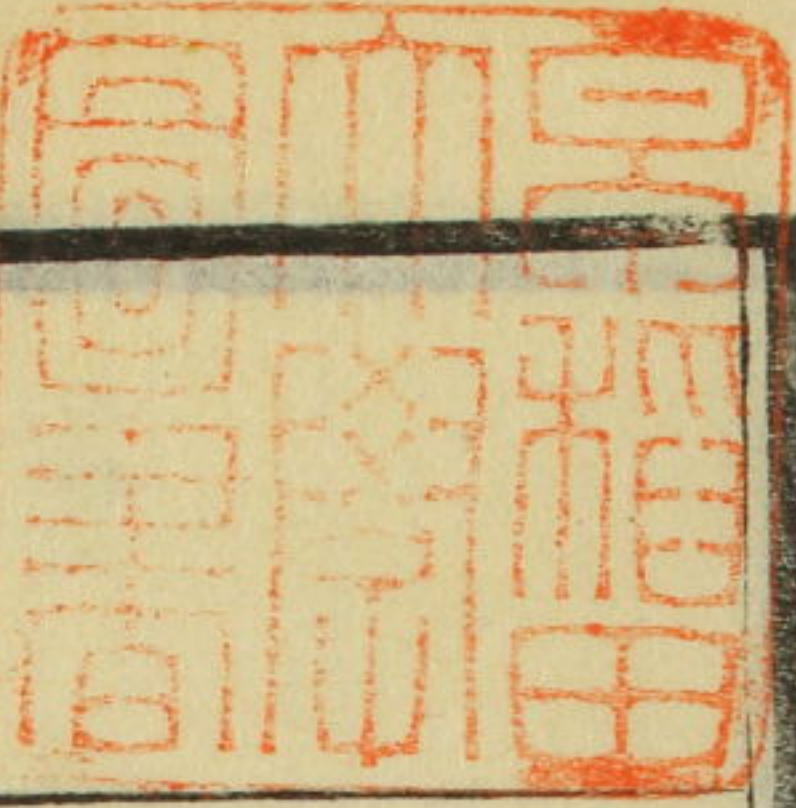
火車	廿七	射照	廿七	子苗	廿七	田植	廿八
つるめ	廿八	幸田	廿九	田子の糸	廿九	扇	廿九
赤ら飯	三十	日傘	三十	帯帷	三十	帷子	三十
辻うね	卅一	夏羽織	卅一	薄羽織	卅一	草物	卅一
汗拭	卅二	氷室	卅二	夏水	卅二	不二湯	卅二
福家	卅二	百乞	卅二	一水酒	卅三	心衣	卅三
着目	卅三	瓜	卅三	冷瓜	卅三	冷汁	卅四
雲の家	卅四	豆梅	卅五	古用干	卅五	おろし	卅五
あつこ	卅六	おろし	卅七	日傘	卅七	夕立	卅七
簞	卅七	抱籠	卅八	巾着	卅八	お魚	卅八
夏夜	卅八	納涼	卅九	すじ	卅九	涼毛	卅九
風薫	卅十	喜盛	卅十	おあ	卅十	さくしぬ	卅十

清水	卅一	鯨	卅一	沖鱈	卅一	川粉	卅三
葛の輪	卅二	河抜	卅三				
		植	植				
美葉	卅四	美葉梅	卅五	冥梅	卅五	新梅	卅五
美柳	卅五	染折	卅六	養り	卅六	まっさ	卅六
夏木	卅六	夏木	卅七	桐の糸	卅七	まっさ	卅七
茶柚	卅七	標のお	卅七	持の花	卅八	西木の花	卅八
合欵花	卅八	西後を子	卅八	接根学	卅九	掃のお	卅九
百日草	卅九	凌宵	卅九	杜若	卅十	牡丹	卅十
芍薬	卅十	卯のお	卅十	芥子花	卅十	茨草	卅十
苔のお	卅十	竹の子	卅十	三浦	卅十	初家	卅十
瓜の花	卅十	源の花	卅十	夏菊	卅十	江の花	卅十



梅子	丑四	百合花	丑五	暮莪花	丑五	盈白	丑五
破壁花	丑六	紫陽花	丑六	夕影	丑六	ふのり千	丑六
藤のお	丑七	高菰刈	丑七	萍の花	丑七	あしあめ	丑七
河沼	丑七	芍	丑八	釣蕉	丑八	蓮の花	丑八
蓮家系	丑八	川骨	丑八	石菖	丑九	若竹	丑九
今年竹	丑九	復朗流	丑九				

於五十九題



# 郭公

今人五百題数句集

## 夏之部

## 梅の本為山軒

志を解すのありを耳に郭公  
 春を去るは作や陸をく耳の穴  
 うんふわうきき入やん時冬  
 正風をきけてき井を弁きん  
 初春をふふふと於てほきん  
 樹々福のきききききききん  
 うきききききききききん  
 山外  
 蘭市

五よめ  
 遅流  
 義香  
 梅室  
 逸淵  
 一具  
 山外  
 蘭市



竹 心

水きつら井戸やまききお時多  
 ほくきんりくろりわし一多  
 大木の尾根よ人なり子親  
 多きまきしうしけさりおきん  
 新市のしら中や厚きん  
 和のまはりききしや時多  
 心けきまきしうしけさりおきん  
 新木の中あきしうしけさりおきん  
 日のまきをたきまきおや時多  
 和のまはりききしうしけさりおきん  
 ほくきんりくろりわし一多  
 おほきまきしうしけさりおきん

角 三 史 民 敦 外 登 下 峯 入 杜

竹 心

やまきつら井戸やまききお時多  
 ほくきんりくろりわし一多  
 大木の尾根よ人なり子親  
 多きまきしうしけさりおきん  
 新市のしら中や厚きん  
 和のまはりききしや時多  
 心けきまきしうしけさりおきん  
 新木の中あきしうしけさりおきん  
 日のまきをたきまきおや時多  
 和のまはりききしうしけさりおきん  
 ほくきんりくろりわし一多  
 おほきまきしうしけさりおきん

角 三 史 民 敦 外 登 下 峯 入 杜



閑古亭

木のうろをぬき文りやんこを  
 ぬきぬきうふあうぬ 玉吉を  
 水おのそふしとわかんこを  
 ひも先くさうり 玉吉くさうり  
 案のきいふまきと木くさうり  
 松竹をすり日まけり電玉くさうり  
 うんこをきくさうりや人のけさる  
 せけん木の女中さうりひま吉を  
 入おをおふよふくうかんこを  
 玉吉くさうりおりよ新くさうり  
 一寸きくさうりの夕日や玉吉を  
 拵めてかりりぬぬ拵やうんこを

海老 海老 祇文 貞之 兼隆 杏圃 坦一 斗一 仁村 古炭 吟風 枕渡

光常

案のきくさうりや同様のきくさうり  
 日向くさうりきくさうりおまを  
 向らりのかうまをうんととり  
 杉上降るぬききくさうり玉吉を  
 かんこをきくさうりやゆきくさうり  
 おまき木くさうり一日ゆき玉吉を  
 ふわきくさうりきくさうり玉吉を  
 花きくさうりきくさうりやぬきくさうり  
 時ふきくさうりきくさうり玉吉を  
 きくさうりきくさうりきくさうり  
 うんこをきくさうりきくさうり

玉吉 悠哉 落先 音貢 里孝 齋泉 旭子 為心 石橋 山方



菴菴

うらひまのきりゆい ぬん ぶら ぶら  
あややまきりゆい ぬん ぶら ぶら

香 来  
梅 之

よきりやきりゆい ぬん ぶら ぶら  
よきりやきりゆい ぬん ぶら ぶら

山 方  
山 方

ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら  
ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら

乙 信

ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら  
ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら

市 水

ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら  
ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら

斗 一

ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら  
ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら

相 宜

ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら  
ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら

香 来

ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら  
ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら

香 来

行  
子

騎驛

かたせきのうら ぶら ぶら ぶら  
かたせきのうら ぶら ぶら ぶら  
かたせきのうら ぶら ぶら ぶら  
かたせきのうら ぶら ぶら ぶら

途 流  
味 會  
香 来  
山 子

羽板

大風ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら  
大風ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら  
大風ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら  
大風ふりやきりゆい ぬん ぶら ぶら

逸 測  
帆 凡  
山 方

青鷺

あややまきりゆい ぬん ぶら ぶら  
あややまきりゆい ぬん ぶら ぶら  
あややまきりゆい ぬん ぶら ぶら  
あややまきりゆい ぬん ぶら ぶら

乍 人  
鈴 之  
梅 之



鶺鴒

まきぎのふえは日おぬり  
いらぬやせとさうらう  
まきぎのふえは日おぬり  
いらぬやせとさうらう  
まきぎのふえは日おぬり  
いらぬやせとさうらう  
まきぎのふえは日おぬり  
いらぬやせとさうらう

社  
林  
古  
僧  
松  
素  
市  
乙  
山  
五  
山

水 鶺鴒

うら  
子れ

流るる水はうら子れ  
かろの子のさだのせり  
からね子のうら子れ  
おのひもあまうら子れ  
声よんはうら子れ  
流るる水はうら子れ  
かろの子のさだのせり  
からね子のうら子れ  
おのひもあまうら子れ  
声よんはうら子れ  
流るる水はうら子れ  
かろの子のさだのせり  
からね子のうら子れ  
おのひもあまうら子れ  
声よんはうら子れ

の  
木  
波  
溪  
菜  
石  
雪  
杉  
松  
九  
葉



通

のやーいふ勢のたう精うこ  
水回折てい水勢もあやみさ  
月の也と精いふ折あ勢  
望ハるこりい層の折やまひ  
らぬのうちまてい身もまぬ水勢  
まふのきりてやうて折う勢  
吾もまの老をうん通い  
原ふへもいほまうり折  
雲一層へまていまう折  
部くもいまのりい折

宗古  
省耕  
我山  
山子  
山  
山  
山  
山  
山  
山

崇 浮

毎日のるふも怪さう紅雲赤  
おけけもさうあ年のほ栄哉  
たさい枝まうふ取くうま  
うさまうてわなをまきぬ小  
あついでふつれらううま  
又手まうて折くゆれもほ栄  
日のぬーあう声同まうさ  
いつふも親まのぬぬほ栄  
栄ハいつと服先ふ折のま  
折の崇ふ志川の言や山のり  
おまういほま川のわらう神

浮  
ひて  
山方  
たよ  
松山  
浪月  
甲岳  
應泉  
峰舎  
吾山  
和堂



樂

かりやんて 陽ちうと 曇り仲  
 のてりけり 折る 折る 折る  
 松をふよ 松とふよ 松とふよ  
 うれから 折る 折る 折る  
 とちちより 折引きて 折引きて  
 産まひ 産の 産れひ 産れひ  
 折る 折る 折る 折る 折る  
 川風や 交て 折る 折る 折る  
 色折れ 色折れ 色折れ 色折れ  
 花 花 花 花 花 花 花 花

山 津 渡 松 東 甲 味 葉 一 松 純 花  
 秀 勇 和 北 浜 嶺 令 云 止 竹 應 仏

甲をきりて 曇り仲 曇り仲  
 葉の 葉の 葉の 葉の 葉の  
 事折る 事折る 事折る 事折る  
 折る 折る 折る 折る 折る  
 曇りや 曇りや 曇りや 曇りや  
 折る 折る 折る 折る 折る  
 川風や 川風や 川風や 川風や  
 色折れ 色折れ 色折れ 色折れ  
 花 花 花 花 花 花 花 花

大 鳥 鳩 布 ち 高 水 三 花 折  
 力 外 羽 山 ち ぬ 銀 力 折 舟



編 摺

編 の 子

枝 桂

るみたる 雲の 海や 花 子  
あくと 雲の 山に 花 子

編摺や 藤つくる 石の 里 摺

うたのりや 日産の 力なる 友 耕

編摺や 折らけらつく 古 耕

かきけりや 菊の 花に 五 鈴

風まてい 花の 葉なる 山 子

枝の子や 葉を 作るの 根 子

枝の 子 枝 桂

枝の 子 枝 桂

枝の 子 枝 桂

下 枝の 子 枝 桂

山 子 枝 桂

よい 水とよ 花の 葉なる 青 好

さうりてい 枝の 葉なる 帰 一

つゝらふ 花の 葉なる 完 和

つゝらふ 花の 葉なる 古 農

つゝらふ 花の 葉なる 山 子

つゝらふ 花の 葉なる 山 子

つゝらふ 花の 葉なる 山 子

つゝらふ 花の 葉なる 山 子

つゝらふ 花の 葉なる 山 子

つゝらふ 花の 葉なる 山 子

つゝらふ 花の 葉なる 山 子

つゝらふ 花の 葉なる 山 子

つゝらふ 花の 葉なる 山 子

つゝらふ 花の 葉なる 山 子

つゝらふ 花の 葉なる 山 子

子 子

七

七

子子や 花の 葉なる 山 子

子子の 花の 葉なる 山 子







救 程

救程 程のたよりとよき 救のたよりとよき

山 木 木 木

救

救のたよりとよき 救のたよりとよき

山 山 山 山

救

遣

救のたよりとよき 救のたよりとよき

山 山 山 山







火 取 虫

唐子

夏の子や梅ちりきふにけり  
を後とよりて志くき花の子は  
引のたねやうふこのちかたれ  
枝よりのをこらうし 麻の子をか

唐子 山外 丹辰 休久 停了

更 衣

川がし 薄てうりむくれと  
無の言らふにさわく花の子は  
堂くもりくぬれあまのまふ  
二層のまやあつてつれてむと  
わらわのけしきあつてつれて  
水多きこけしきあつてつれて  
うけけりさねのまふ  
ひきつてあつてつれて  
より年よまあつてつれて  
みもあつてつれて  
清くあつてつれて

漢高 二葉 漢岳



老幼の作人のまゝらふとらふとく  
用もふくニ餘なきなり 京名  
門々ハ松風吹て 出帆とく  
大也なつたる氣ふやこらもく  
たふもく川の松もまふなり  
新屋呂の汗をまつふ 京名  
松ふり 京もすむや 京名  
京名の水よりうつてらるもく  
そのまてらるるあふや 京名

秋 養うたふひうううううう  
給ふて 孫力も 京名 日暮

京名 月采 三力 流久 京名 京名 西池 為山 梅室 萬古

給

口ゆりといひて 給う礼  
給も又うけ 古堂 少う給  
傳もすてしふ 給う手  
甲心よ 給うて 少う給  
京名 給うて 給う手  
一四ハ 給も 給う手  
京名 給も 給う手  
大也の力ハ 一人 給う手  
京名 給も 給う手  
京名 給も 給う手  
京名 給も 給う手

ひ了 丁名 山方 ちさ 松と 京名 干布 京名 孤身 布衣 柳 柳 一



白重

川花ひすうふくくまは給ぬ  
居るくく相葉おむし和給  
抑除きるまの引まやまつ給  
若くみふ給はせうねぬ初あせ  
さー伊の志んふせりも月給  
口のふさふ引ひてつる給く仲  
給ふて給もあのをんきおたり  
給ふておひびーりりり  
掛る月の志んー給てく月給  
香無と給て給よ来うふうり

大乃  
共儂  
徳哉  
松之  
意圃  
甲換  
色測  
鼎古  
山子  
中哲  
運流

綿灸

青簾

たーあーもりけのえてく白守  
給ふさやきひるの志ん給ぬ  
けー給の人のくぬるや給よ  
若ふうさる給のえさやまう  
まうのさておらまやまう  
おまもあ給のうらーまう  
くさハ又本ふうくうぬまう  
先掛ておく出さるまう  
さーてりあうもあうんかハ月

香五  
友甫  
山風  
山子  
渭泉  
冷屋  
山介  
山守  
由橙



井

月

貴りおて一日ねふ四月ね  
枯くの魚もさや五月の朝鳥  
水ももらふふよひは五月  
朝のりこれ五月のせうふ  
き山のせうふ急な五月ね  
舟入のたけく六月う月ね  
ちももあつまひり五月ふ  
いの中海ふ六月う月ね  
おくのうさや五月の柳を  
水きふきま所する五月末  
おとけうあひる五月のうね  
流きの雲原く六月う

又外  
大乃  
乙良  
去年  
岸空  
鈴云  
今有  
甲辰  
清水  
蓮風  
月昇  
大け

昇月

財地まる海のつく五月ね  
川、舟、うさ、手、は、五月う  
岸ひらうさうふ六月う  
藤はのきさうさ六月ね  
川、舟、の、海、う、五月う  
舟、それ、は、五月う  
い、う、う、う、五月う  
川、口、や、舟、八月のう  
る、は、八月のう

泳文  
京本  
清風  
折塘  
山子  
山子  
丹嶺  
松支  
梅空







佛生會

清いあふるよるを会せう家の事

山古

よをりく人の御事 仏生と云

病以

宗うまも 深いにいれん佛生會

味會

拾ひまのよをおとせう仏生と云

清静

さわりなき雀をよる年つし

元史

入うる日のゆらう年清し

芦友

清きさそを極く年のつししれ

道流

赤梅や 除きをたよふ梅原へ

おきく

とらうらう梅原さそふ ちんをん

雲友

年つし

夏籠

夏籠のひくちやうとあのこと

三省

くあねい老のすまひよ夏書が

一具

よの月のさすちあつて夏書いれ

可亭

くえいおきてひくちよ夏書うふ

松堂

さりやんちうさむらり 清系

清屋

あふくちえくちちうり清まうり

仁月

清のあいつそりあふぬ系うぬ

系友

筑人祭

夏書

大矢あふ人もれぬく口とたり  
るおと息と絶せん大矢教

不深  
普陽

大矢教



長神集

折のひうり木海へ入て長神  
川波ふんせうして方うらう  
神あうる影うらうる扇うれ

素英  
松支  
方山

祭

まひりふ日知といのる祭うね  
無窮のまてふしてるる祭うま  
おとえの日は敷せぬまつり祭  
祭海祭やふんの人あうり  
祭祭牛乃祭ひや志われま

鳥外  
成路  
赤山  
山子  
方山

津島祭

祭も灯も涼一は冷の宵祭  
水や元津島祭のこりし美

庄流  
芦友

歌

あむらふ小柳はこれてうら軌  
おをさるるふらうりや軌のおし  
能つさるきしとあふ一おふれ  
不尽のまてさうら其や能の版  
ふましやおの口跡のま列るる  
能のまやすれをさうへの神  
正能やうらあうら松うら  
能あうらうらうらあうら松うら  
まてさうらうらうらあうら松うら

清けしてあのかうらうら松うら  
月さまを伏せ水波新葉うれ

松家  
万古  
素明  
相去  
冥市  
西山  
山子  
空貢  
方山  
由松  
松家



新

茶

初松魚

京の茶一斗をかきつる新茶は  
何れもその難ちう口の茶茶は  
昨ふとをぬきしとまきぬ茶茶は  
いかに世にあらうの茶茶は  
いかに今にあらうの茶茶は  
いかにこの茶茶は  
陰やまきつる男をい  
さうつつかたてはらうり初松魚  
乳いきてる茶茶は  
夫のまきつる茶茶は  
月と松魚いかにあらう

甲 松 三  
千 字  
尾 香  
山 方  
力 心  
古 新  
可 新  
相 酒  
津 勇  
葛 田

明

夜

初松魚いかにあらう  
いかにあらうの茶茶は  
いかにあらうの茶茶は  
古人のつらさをいかにあらう  
不尽の茶茶は  
いかにあらうの茶茶は  
いかにあらうの茶茶は  
いかにあらうの茶茶は  
いかにあらうの茶茶は

意 皮  
杜 水  
ち と  
鳥 介  
万 橋  
赤 崎  
山 崎  
山 崎  
山 子



夏夜

夜 短

夏のおをとりらりりり料ね舟  
 夏のおのりてはるり竹の葉  
 夏のおやあふれぬ枝のしりり  
 夏のおや待りりりり枝の葉  
 夏のおの森耳ふつとや水の音  
 夏のおのりりりりりりりりり  
 夏のおやあふれぬ枝のしりり  
 夏のおやあふれぬ枝のしりり  
 夏のおやあふれぬ枝のしりり  
 夏のおやあふれぬ枝のしりり

雀 喰  
 完 和  
 表 示  
 梅 室  
 山 方  
 七 枝  
 洗 耳  
 魯 心  
 柝 床  
 一 府  
 山 子

夏

秋

夏のおをとりらりりりりりりり  
 夏のおのりりりりりりりりりり  
 夏のおのりりりりりりりりりり  
 夏のおのりりりりりりりりりり  
 夏のおのりりりりりりりりりり  
 夏のおのりりりりりりりりりり  
 夏のおのりりりりりりりりりり  
 夏のおのりりりりりりりりりり  
 夏のおのりりりりりりりりりり  
 夏のおのりりりりりりりりりり

舟 弁  
 美 心  
 杜 屋  
 梅 出  
 可 亭  
 ぬ 破  
 山  
 氷 壺  
 玄 子















葉降日

葉降る新や雪口のまきしり

葉降 九

葉玉

葉玉や照ひる新し 女房直

和歌

葉玉やおのぼりてかきる 新し玉

和歌

葉玉やゆらえまきるふくまき

月々

葉玉やおもねりまき 物え

山方

端午

端午のまきしり 松の節まき

松小

松のまきしり 終る端午哉

秋香

松のまきしり 終る端午哉

生也

雨

月の降るまきしり 松の節まき

葉降

竹の降るまきしり 松の節まき

鳥外

松の降るまきしり 松の節まき

春末

竹の降るまきしり 松の節まき

竹雨

松の降るまきしり 松の節まき

桃曉

松の降るまきしり 松の節まき

松松

松の降るまきしり 松の節まき

字門

松の降るまきしり 松の節まき

名山

松の降るまきしり 松の節まき

立字

入梅

入梅のまきしり 松の節まき

宗三

松のまきしり 終る端午哉

宗三







五月篇

虎  
雨

春井の流あけくしや五月を統  
さくきぬ海きそくしり五月は  
水のそくやおりのちおひのそり  
木物やききぬひく五月を  
朽く木のきりすくし五月を  
五編の藤耳よりく五月を  
石ころの根の流きそけりり疼くる  
陰にともさくけりり疼くる  
橋の欄よりおりのけりり疼くる  
流きそくやおりのちおひのそり

松花  
山子  
若年  
溪高  
龍松  
山方  
石大  
山方  
屏布  
勢つ

夏  
月

ぬれくしりくしりり疼くる  
おりのちおりのちおひのそり  
陰にともさくけりり疼くる  
さくきぬ海きそくしり五月は  
水のそくやおりのちおひのそり  
木物やききぬひく五月を  
朽く木のきりすくし五月を  
五編の藤耳よりく五月を  
石ころの根の流きそけりり疼くる  
陰にともさくけりり疼くる  
橋の欄よりおりのけりり疼くる  
流きそくやおりのちおひのそり

松花  
山子  
若年  
溪高  
龍松  
山方  
石大  
山方  
屏布  
勢つ







射照

田乃雲を射し新さすこりか  
吹風小 照南のうら小射照雲

始 号  
佳 陰

早

仰ててもまきさう中の子あられ  
形定れおのの影川平新の苗  
松乃曇を吹いづりぬくまあられ  
吾の積るうやふ苗のあられし  
きみしあられさあられふあうふ  
引投て降の因く積るまあられ  
投解るあやてさのさより  
やまふやふあまらふ水乃井く  
くしあふふえくさけるふ苗哉

由 雲  
風 止  
味 令  
月 之  
雲 夏  
朴 家  
吟 風  
病 ぬ  
亮 和

苗

田

植

うりの積るまてともあられ 始り苗  
さうふよく道もあられ 田植か  
集る叶の影ふせまる 田植くれ  
あうまはるまもあられ 田植ぬ  
あまのさうらるの田うえく  
新宮及もまきさ 新の田植い  
探るくく 松田すまらぬ 苗あ合  
るけひのまて 雲ひせす 田植い  
けうしあふふ 田たうと 積るさり  
やまをんてふと 始まる 田植い  
夕月あうさく 照るふ 田うと 雲

探 言  
梅 雲  
佳 箭  
夕 耕  
雲 子  
冬 和  
友 耕  
木 陰  
蒼 松  
相 陰  
相 陰



早乙女

降つゝさうりしはける田植ふ  
飛やうの屋をさうり田植ふ  
ふてりか節をさうり田植ふ  
移さ田の迄く降りり田植ふ  
さうり田や田植ふひと後  
あさうりさの節降り田植ふ  
早乙女やさうり田植ふ  
おろりさの節をさうり田植ふ  
さうりさの節をさうり田植ふ

田 扇  
若 年  
水 壺  
山 子  
山 子  
山 子  
松 水  
青 好  
鳥 外  
等 哉

青

田

田子取

うきおもはるはるのや田のさうり  
きくさうり節のさうりさうり田のさうり  
ひさの節をさうり田のさうり  
一田さうりさうりさうり田のさうり  
さうり田のさうりさうり田のさうり  
はさうりさうりさうり田のさうり  
さうりさうりさうり田のさうり  
後のみや汗のさうり田のさうり  
田のさうりさうりさうり田のさうり  
秋さうりさうりさうり田のさうり

秋 草  
味 草  
常 徳  
山 子  
山 子  
山 子  
鳥 外  
青 好  
鳥 外  
等 哉



扇

子の香は日ごとくつぎふ扇  
ひびく扇のふきやまの扇  
東さしあうらのあふふ扇  
一日の揺ふ扇  
ひびく扇のふきやまの扇  
山門をえ物つづみ扇  
ひびく扇のふきやまの扇  
このまじり心なき扇  
扇のふきやまの扇  
手ついでたむや扇  
あふふ扇

塗戸  
葛古  
三枝  
西池  
鳥外  
山子  
怪  
牛也  
義秀  
山  
乃山

扇

扇

かりの扇のふきやまの扇  
ひびく扇のふきやまの扇  
東さしあうらのあふふ扇  
一日の揺ふ扇  
ひびく扇のふきやまの扇  
山門をえ物つづみ扇  
ひびく扇のふきやまの扇  
このまじり心なき扇  
扇のふきやまの扇  
手ついでたむや扇  
あふふ扇

車  
松也  
少我  
鈴石  
石炭  
山子  
乃山  
西池  
乃山



日傘

あまの原日傘よさきて雨ひかり  
ゆらゆらのまや日傘のまきと致  
ゆらゆらまのまきとあまの傘  
あまのまきとあまのまきとあまの

和傘 松花 七さ

紙帳

あまの原のまきとあまの紙帳  
あまのまきとあまのまきとあまの  
あまのまきとあまのまきとあまの

和傘 可帳 山子

帷子

あまの原のまきとあまの帷子  
あまのまきとあまのまきとあまの  
あまのまきとあまのまきとあまの

帷子 糸帳 山子

辻の花

あまの原のまきとあまの辻の花  
あまのまきとあまのまきとあまの  
あまのまきとあまのまきとあまの

和傘 山子 山子

弓矢

あまの原のまきとあまの弓矢  
あまのまきとあまのまきとあまの  
あまのまきとあまのまきとあまの

和傘 山子 山子







夏水

水もたつたりのありなる  
ふみかたのこもよふなるいふつ水  
水ものりたるもよとゆるやなる水

清風  
山方  
水

不二指

指もよとぬをよまきや不ら指  
不二指指や水とよとらるる指

交水  
昇中

祇

祇作おとそ教ふはのわし  
月津や照修からの指を  
松尾を平あふらりのわしを  
さそんまや日新のわしを  
指をまやおよそあふら指

生宇  
松堂  
昇平  
昇中

園會

雨

乞

雨もよとぬをよまきや不ら指  
雨乞やあふらなるいふつ水  
雨乞中けしよとゆるやなる水  
雨乞いやあふらなるいふつ水  
雨乞やあふらなるいふつ水

山  
山  
山

一夜酒

牛のまの酒のさきや一夜酒  
酒のまの酒のさきや一夜酒

可  
可

心太

心太  
心太  
心太

山  
山  
山



味も糸も冷く涼しや 心古

糸古

葛巾中 膝つちふひく

山方

葛巾中 膝つちふひく

帆風

葛巾中 膝つちふひく

相家

葛巾中 膝つちふひく

山子

葛巾中 膝つちふひく

乙良

葛巾中 膝つちふひく

万古

葛巾中 膝つちふひく

我老

葛巾中 膝つちふひく

糸古

葛巾中 膝つちふひく

糸古

瓜

水 葛

ついでにみゆらういや 瓜の如

山子

あきみゆらういや 瓜の如の如

山子

厚しけぬるのいよれや 瓜の如

山子

アキミユラウイヤ 瓜の如

山子

アキミユラウイヤ 瓜の如

山子

アキミユラウイヤ 瓜の如

山子

アキミユラウイヤ 瓜の如

山子

アキミユラウイヤ 瓜の如

山子

アキミユラウイヤ 瓜の如

山子

アキミユラウイヤ 瓜の如

山子

アキミユラウイヤ 瓜の如

山子

アキミユラウイヤ 瓜の如

山子

冷し瓜

素

冷の素も 涼深なりそもの素

涼深



雲の峯

海行つてけるのそかりきり  
月しるるふらふらとそり  
いふふふふふふふふふ  
おんおんおんおんおんおん  
けの葉おんおんおんおん  
ひのけしき月のそひらり  
粉ふらふらと本のそり  
さうらむむく藤のつらり  
経くそ所乃きさや  
けくのうらうのそらん  
らんらんのもておんおん  
おんおんおんおんおんおん

の久  
相海  
いり  
ふふ  
ちる  
ふふ  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん

下風昼霞

よ部むのたかうつや  
まふれいそらうと  
ふふふふふふふふふ  
おんおんおんおんおん  
おんおんおんおんおん  
おんおんおんおんおん  
おんおんおんおんおん  
おんおんおんおんおん  
おんおんおんおんおん  
おんおんおんおんおん

有耕  
乙良  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん



土用干

蘇州のくさしきねむきまへはれん  
あきうふふめ房や極よ土用干  
ありけんのまゆめさくく土用干  
ふちくせとつとまや土用干  
古まふふよふ口とまぬ土用干  
湖の風もまふねと土用干  
松人の赤るやまのき土用干  
春の甲はれまはの土用干  
いりちとつと情のくさく土用干  
むし干やせきもまふふも土用干

味舎  
多ふ  
不潔  
和月  
素席  
菊水  
布水  
外  
一具  
茨山

暑

虫干しと乾たつては干風が  
土干や脈しれりまき土用干  
暑休して西日子陽き暑く那  
山の夏風の臭たきや山のけ  
まぬをまらる風あつき土用干  
子のひふうつて暑く暑毒の如  
おきのけさくまらあつさうれ  
せしつと暑きさえさうけ原子  
吾新もきぬ暑中の暑きま  
艾りむぬのまらまらうらうれ  
山乃終つてまらえりやの暑くま

漢之句  
帆舟  
卓部  
五只  
斗一  
如水  
貴山  
栢枝  
桐海  
木直  
涼谷







白

雨

草

夕とらひ終りてりや若くは  
ゆつとらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中

乙 物  
夕 介  
夕 介  
夕 介  
夕 介  
夕 介  
夕 介  
夕 介  
夕 介  
夕 介  
夕 介

菴枕

竹婦人

夕とらひ終りてりや若くは  
ゆつとらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中  
夕とらやあつとらてし海の中

五 尺  
相 介  
大 乃  
百 丈  
一 具  
相 魚  
帆 風  
相 室  
桐 池



掛香

夏瘦

夜うへー 法元をささるる木ぬ人  
我る中 始るふあふふふふ  
うけ香中 事さうりり 結のおと  
あひしり なるなるうーあひいり  
なるなるや 日ふふふふの思り  
なるなるの 所中とけとふふふ  
なるなると なるなるなる川ふふ  
なるなると なるなるなるの 結なる

静 道 流 一 集 大 け 相 有 秀 竹 不 深 ぬ 春 氷 壺

納

涼

水玉をよけし 雨をすくみふ  
梅を枝つらつらつ 夕まき  
三日月をさるる 命き門の涼  
言さの 物 涼を 居るうす  
涼 涼の 涼ん ともや 夕まき  
神 集る さわきも 夕まき 涼  
さささの 月も わるる 夕まき  
うーうら 折ふ 結えら 夕まき  
夕涼も なるる 夕まき 涼  
涼を 涼る 夕まき 夕まき  
我すふの うす 大工の 涼  
古 涼の 涼る 夕まき 夕まき

成 海 氷 露 夕 介 珍 言 夕 涼 久 昇 市 涼 古 希 方 相 涼 孝 水 安 世







風 蕙

ひらき争ふかたれて涼し 船跡  
おとろくも水舟にけしふ青涼し  
ぬるの舟のきしと涼しよのち  
ぬのええと涼しよのち  
舟をいへて舟すしと舟のき  
水やうたててい涼しとえし  
舟中すしと涼しと水のき  
涼しとええと涼しとええ  
ひらき争ふかたれて涼し  
二のあまの時のきしと涼し  
き入りのきしと涼し

只そ  
白平  
了垢  
抱山  
白村  
舟中  
山方  
溪高  
院庭  
曉水  
子垢

青 水 岸

風きる 雲乃 船中 や 清涼 涼  
けきを 涼る ちきり 風の きる 涼  
板舟の 揺る 人 入る 涼  
船跡の けしと 涼し  
田舎の けしと 涼し  
舟の 揺る 船の 揺る 涼  
入舟も 舟も 涼し  
乙多の 舟も 涼し  
すき 涼し  
舟中 涼し  
舟中 涼し

一介  
山子  
古山  
栗く  
松岸  
杜唐  
幽年  
斗一  
山子  
山子  
為山



















藤

松

若柳

若柳

さやまふかふる山の針松ふ  
涼取て風の音はる新樹うれ  
山たかかふるさうひの新樹うれ  
入山の風をおさる新樹うれ  
水さるて響りくる新樹うれ  
さうまのさうく流るやう松  
松さやの杖乃下やわりの松  
とんぼのまいる松や若柳  
寸丈いひいやり〜〜松  
松のさうまやまらうや若柳

厚樹 里塚 葉園 陸軍 運田 松山 杜入 貞之

若柳

若柳

若柳

若柳

若柳やまのひふよるさうり  
若柳やまのひふよるさうり  
若柳やまのひふよるさうり  
若柳やまのひふよるさうり  
若柳やまのひふよるさうり  
若柳やまのひふよるさうり  
若柳やまのひふよるさうり  
若柳やまのひふよるさうり  
若柳やまのひふよるさうり  
若柳やまのひふよるさうり

厚樹 葉園 陸軍 運田 松山 杜入 貞之



木下園

夏乃紫のよらひもや木下園  
新のハハの月さ丹や木下や  
寺納の面うきさき一木下園

木下園  
もとと

夏木立

孫村ハ似くおまき一夏木立  
夏木立松の気も落きしん  
あんかきと清寺の杜や夏木立  
松杉の系もひらや夏木立  
ふさふさし清寺の杜や夏木立  
ふさふさし清寺の杜や夏木立  
ふさふさし清寺の杜や夏木立  
ふさふさし清寺の杜や夏木立

山子  
山子  
山子  
山子  
山子  
山子  
山子  
山子

青梅

桐の花

青梅

一夏の月のほろり梅ちる  
あささく梅ちる梅ちる  
ふさふさしの梅ちる梅ちる  
たてり梅ちる梅ちる梅ちる  
新報の梅ちる梅ちる梅ちる  
梅ちる梅ちる梅ちる梅ちる  
梅ちる梅ちる梅ちる梅ちる  
梅ちる梅ちる梅ちる梅ちる  
梅ちる梅ちる梅ちる梅ちる  
梅ちる梅ちる梅ちる梅ちる

可登  
多吟  
溪多  
五海  
梅回  
梅回  
梅回  
梅回  
梅回  
梅回  
梅回  
梅回



花

柿

花  
標

昔柿や片枝きりし柿の上  
まき枝とあうこもしてきりし

山子  
夢

実をとり物とあうも多き柿の  
木を名をねねしりし柿の

崎  
性

月あつぬ木あつぬのきりし柿の  
柿のきりし柿の

可  
方

高きとあう柿とあう柿の  
柿の

鈴  
石

やとあう柿の柿とあう柿の  
柿の

西  
馬

新柿とあう柿とあう柿の  
柿の

色  
奥

椎  
の  
花

花  
の  
栗

実をとり物とあう柿の上  
まき枝とあうこもしてきりし

友  
浦

うとあう柿の柿とあう柿の  
柿の

色  
洞

実をとり物とあう柿の上  
まき枝とあうこもしてきりし

下  
係

空際とあう柿の柿とあう柿の  
柿の

渡  
院

枝きりし柿の柿とあう柿の  
柿の

番  
松

つらとあう柿の柿とあう柿の  
柿の

相  
魚

さびとあう柿の柿とあう柿の  
柿の

字  
門

ちのうとあう柿の柿とあう柿の  
柿の

多  
山

口柿とあう柿の柿とあう柿の  
柿の

山  
方



合歡花

時はく不情き口和や今秋の糸  
松をくつとまゝまねわいのふ  
むらぶのさりり甲申合歡の花

出松  
乙名  
幸水

覆盆子

引くまゝ覆盆子もふたふた  
今秋ふくもやあつとあつと  
秋ふくも子のこもやたつと

山  
雲  
山

椋桐花

又あつとふくもむき椋桐の花  
このぬれはつとあつとの候あつと  
葉ふくもあつとあつとあつと

松  
冬  
松

柿乃花

橘あつとあつとあつとあつと  
つとあつとあつとあつとあつと  
柿あつとあつとあつとあつと

杜  
松  
了  
松

百日紅

雲板も照らすまゝあつとあつと  
照らすまゝあつとあつとあつと

山  
松  
子

凌霄

凌霄や不きあつとあつとあつと  
凌霄やあつとあつとあつと  
凌霄やあつとあつとあつと

乙  
松  
松











芍薬

芍薬のつぼみさきと人のこころはくらくら  
るにまやかしきい寺のまをさしけ  
るまやかしきい人のこころはくらくら  
芍薬のつぼみさきと人のこころはくらくら

社 根  
松 月  
芍 薬  
乃 山

卯

卯の花乃花はくらくらと人のこころはくらくら  
卯の花乃花はくらくらと人のこころはくらくら  
卯の花乃花はくらくらと人のこころはくらくら  
卯の花乃花はくらくらと人のこころはくらくら  
卯の花乃花はくらくらと人のこころはくらくら

洛 久  
源 谷  
卯 花  
乃 山  
芍 薬  
乃 山

花

卯の花乃花はくらくらと人のこころはくらくら  
卯の花乃花はくらくらと人のこころはくらくら  
卯の花乃花はくらくらと人のこころはくらくら  
卯の花乃花はくらくらと人のこころはくらくら  
卯の花乃花はくらくらと人のこころはくらくら

夕 外  
山 子  
卯 花  
乃 山  
芍 薬  
乃 山

茶子  
花

茶子のつぼみさきと人のこころはくらくら  
茶子のつぼみさきと人のこころはくらくら  
茶子のつぼみさきと人のこころはくらくら  
茶子のつぼみさきと人のこころはくらくら  
茶子のつぼみさきと人のこころはくらくら

一 具  
乙 名  
交 水  
双  
松 月















著 裁の  
花

小春のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 春のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 夏の花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 秋のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 冬の花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 春のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 夏の花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 秋のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 冬の花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま

西子 芳子 山子 逢子 友子 後子 季子 孤子 二子 多子

魚 昼

か  
と  
み  
の  
と

紫  
陽  
花

紫陽花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 紫陽花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 紫陽花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 紫陽花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 紫陽花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 紫陽花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 紫陽花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 紫陽花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま  
 紫陽花のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま

水 巾 巾 巾 巾 巾 巾 巾 巾 巾



夕

魚

ふたつ

あつたつちやき定まりてあつたつち

六月

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

藻の花

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

真菰

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外

洋

あつたつちやき定まりてあつたつち

夕外







蓮の葉

川骨

つるすすくもふふちうり蓮の心  
 河の水を引きまてうり蓮の花  
 花の葉やもつれ一まん蓮の花  
 葉の葉おわいれまうり蓮の蓮  
 蓮の葉や柳の葉あまうり蓮  
 蓮の葉まきまきおわいれまうり蓮  
 水まきく減まきく蓮の葉  
 まきの葉や池中の葉まきく蓮の  
 の葉れくわいれまうり蓮の葉

舟外  
 丹波  
 松風  
 山方  
 山子  
 為山  
 松  
 松  
 松  
 松

石

若竹

石の葉の葉まきく蓮の葉  
 石の葉や柳の葉あまうり蓮  
 の葉れくわいれまうり蓮の葉  
 石の葉まきまきおわいれまうり蓮  
 水まきく減まきく蓮の葉  
 まきの葉や池中の葉まきく蓮の  
 の葉れくわいれまうり蓮の葉  
 石の葉まきまきおわいれまうり蓮  
 水まきく減まきく蓮の葉  
 まきの葉や池中の葉まきく蓮の  
 の葉れくわいれまうり蓮の葉

舟外  
 丹波  
 松風  
 山方  
 山子  
 為山  
 松  
 松  
 松  
 松











